

6月のことば

教育 ～学び⑥ 「センスオブワンダー」

当園西側の緑のコッコファームに子ども達を連れて入ると、子等の目は爛々と輝いて「わ～三つ葉や、四つ葉もあるよ。」「こっちの葉はギザギザや丸いのもある。」「ハートもあるでェー。」と緑の国に没入し、次々と発見していきます。

大人にとっては当たり前のことでも、子ども達は自らの感性で物事の不思議さを知り、次々と発見していきます。つまりこれが「センスオブワンダー（感性で物事の不思議さを発見する喜び）」の状態です。そしてセンスオブワンダーの雰囲気になると、強制的に教えずとも、自ら意欲的に学ぶ様になるのです。

そこで大人が配慮しなければならぬこと二点。

1. 一旦は子どもとともに感性の世界に入り、「そうやねェー」「おもしろいねェ」と不思議さを共感すると、子どもは益々発見して学ぶ意欲を示します。
2. しかし、子どもが折角、センスオブワンダーの世界に入ったのに、無碍に知識を見せびらかして…「あ～それは～ですよ。」「あ、それはちがうよ。」等と一々、説明すると、子どもの意欲は失われます。

* トップアスリート各家庭から導かれた子育ての法則で、これを脳の成長の観点から考えると

0～3才	・・・	心が伝わる	脳を育てる
3～7才	・・・	勉強、スポーツに興味を持つ	
7～9才	・・・	思考力、判断力の素地をつける	
10才～	・・・	才能を見出す	

ということであり、とりわけ3～7才はスポーツの楽しさを見出して自ら没頭していく状態を作り出す事こそが必要であり、この時期の英才教育は意味がないと言われています。

杉山美沙子氏 ～杉山愛の母
スポーツ教育研究者
代表著作『杉山式スポーツ子育て』

結局、優れた教育者・経営者・達人は皆、このセンスオブワンダーを自ら見つけて没入し、他の人にもこの世界を見させて引き込む能力のある人です。

そして優れた親は、子どもと一緒にセンスオブワンダーを共感し、喜び合える人なのです。